

# 県内学級担任紹介

日々、児童生徒のよりよい成長を願い、魅力溢れる授業実践や学級経営を行っている先生方を紹介します。その先生が日々の授業や学級経営を行う上での根幹となっている考え方、またよりよい実践のためにどのような工夫をしているのか、その秘訣も紹介します！

学校名：習志野市立第一中学校



担任名：秋本 大樹  
教員経験：5年目

(令和5年5月1日現在)

**学級経営で取り組んでいることや「やりがい」**

「学級目標決め」は特にこだわります。全員がクラスへの想いを語り、わかりやすくもオリジナリティ溢れる目標にすることで、愛着が湧き、みんなで進むべき道が共有されます。

**授業で心掛けていること**

何をするにも、「納得感」を大事にします。学習内容だけでなく、ノートの取り方、授業形態、授業内での活動に「こんな意味がある」を伝えたり、みんなで考えたりしています。

**私の好きな「こ・と・ば」**

「この世に無駄は一つもない」身の回りの全てに感謝できる言葉であり、様々なアイデアを生み出す源泉となる言葉です。

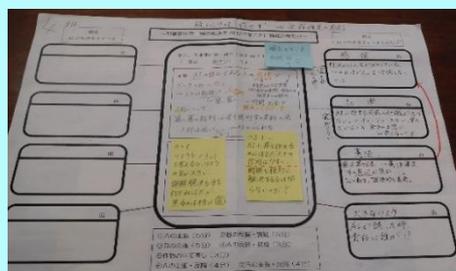
**【最新のテーマでディベート】**

社会科 裁判所の仕組みと働き

ディベートは、知識、資料活用能力、関連付けの思考力、主張する内容を選び判断力、相手にわかりやすくかつ印象に残るように伝える表現力などを能動的に楽しみながら身に付けられます。

そのような強みがあるディベートと答えが確定していない最新のテーマを掛け合わせることで、新しい考え方や価値観が議論を通して溢れてきます。

今回は東京大学法学部が今年の学祭で発表した AI 模擬裁判を取り上げて、「刑事事件の第一審判決を AI が下すことに賛成か反対か」というディベートを行いました。不確定要素が多いテーマを扱うリスクはありますが、その分、答えが定まらず、考える余地が存分にあることが最新のテーマを扱う魅力です。



ディベートに向け班でまとめた立論案



ディベートの様子

この件についてのお問い合わせ  
企画管理部 教育政策課  
電話043-223-4015